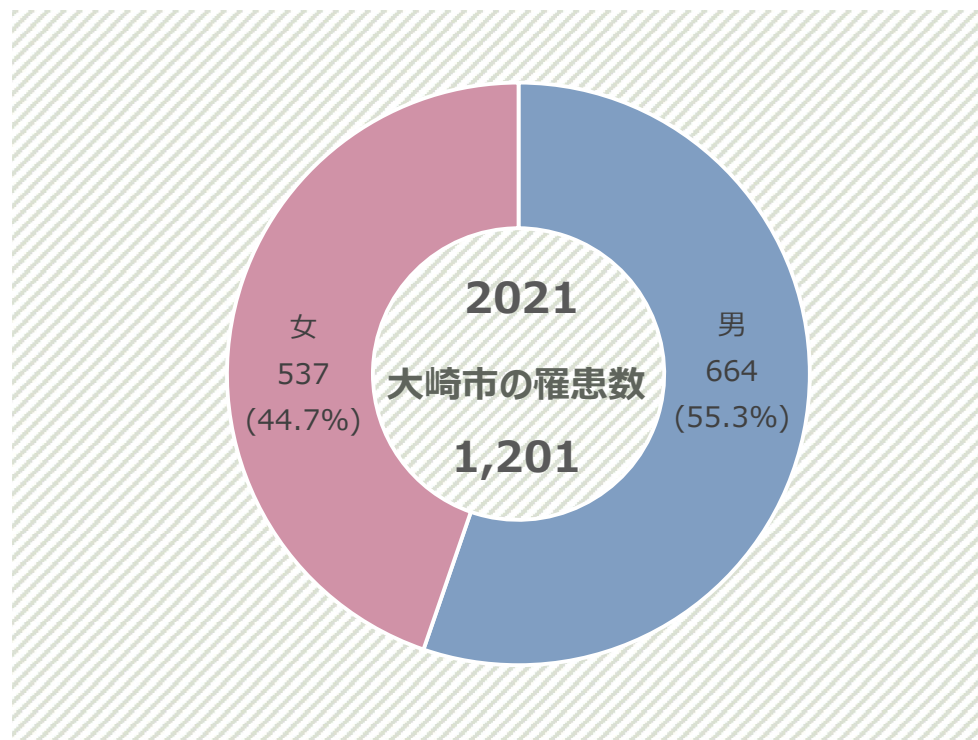


大崎市のがん罹患

令和3(2021)年集計

罹患数



※上皮内がんを含む（以下、図表のすべてで同じ）

2021年に大崎市で新たにがんと診断された件数

男性 664 件
女性 537 件

男性は女性よりも多く、全体の約6割を占めていました。部位別では、男性では、大腸、胃、肺、前立腺、膀胱の順に多く、女性では、乳房、大腸、子宮、胃、肺の順に多くなっていました。

部位別にみた罹患の多い順

	1	2	3	4	5
男性	大腸	胃	肺	前立腺	膀胱
女性	乳房	大腸	子宮	胃	肺

出典

がん登録等の推進に関する法律 第19条に基づき、宮城県立がんセンターが申請し、提供を受け集計したもの。

大崎市のがん罹患 令和7年10月

編集・発行：宮城県立がんセンター

連絡先：〒981-1239

宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1

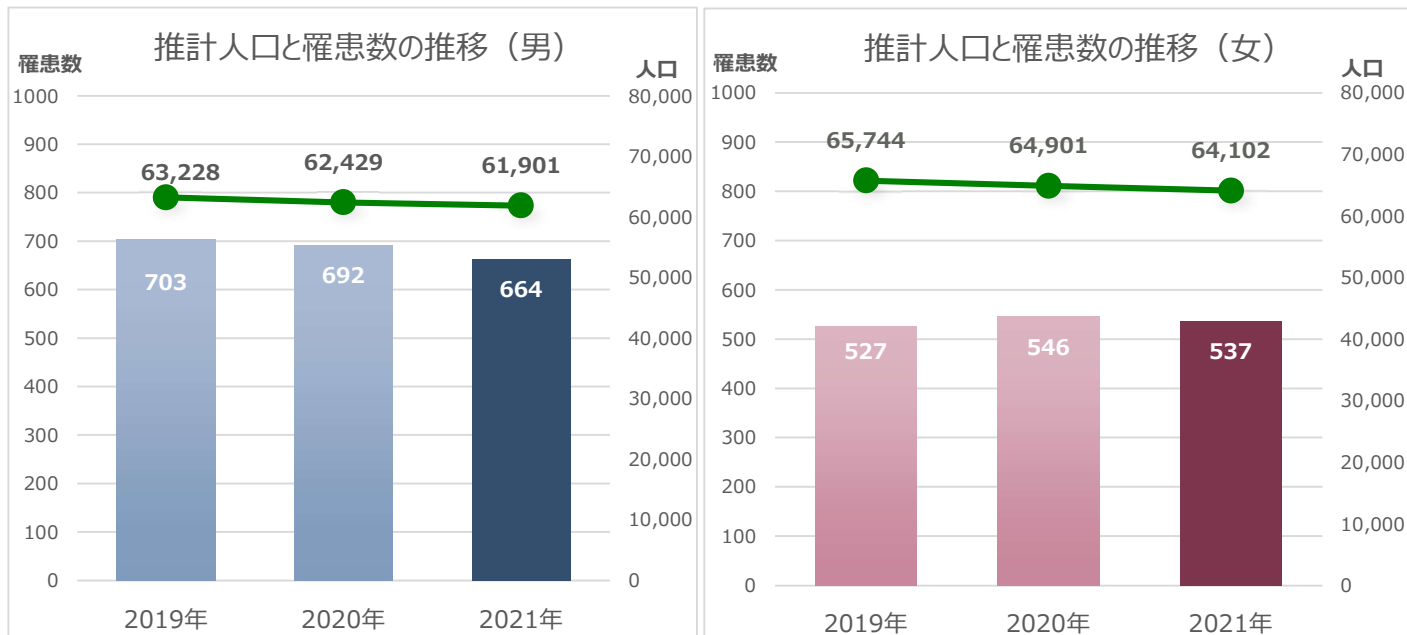
T E L : 022-796-3624

E-mail : registry@miyagi-pho.jp

推移

●男性では、減少傾向にあり、女性では、530人前後で推移しています。

推計人口…国勢調査による人口を基に住民基本台帳から得た人口の増減を加減して算出した人口です。

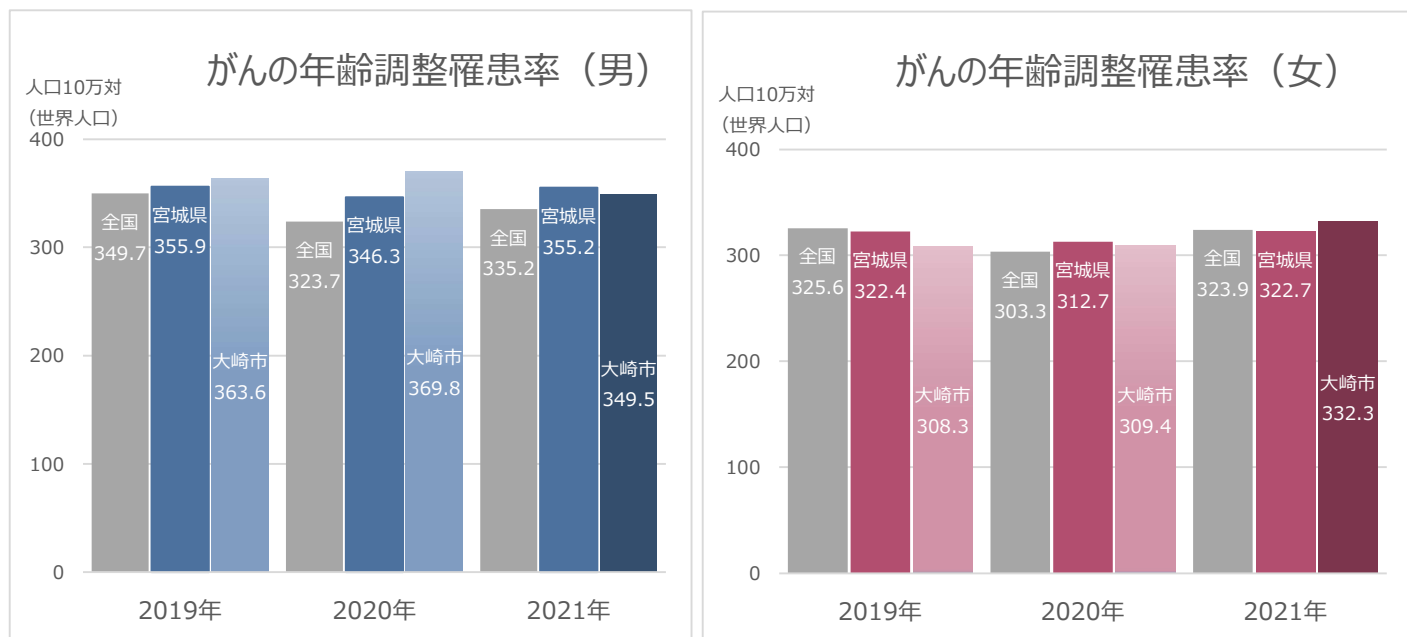


●男性では、全国や宮城県よりも高い値でしたが、2021年に宮城県よりも低い値になりました。女性では、全国や宮城県よりも低い値でしたが、2021年は全国や宮城県よりも高い値になりました。

出典 全国：厚生労働省「全国がん登録罹患数・率報告」

宮城県：宮城県のがん罹患～宮城県がん登録 2021年（令和3年）集計～

年齢調整罹患率で比較する理由…がんは高齢者に多いため、単純に人口で割った罹患率で比較した場合、高齢化率の高い地域で高い値になります。そのため、がんについて地域比較を行うときは、同じ年齢構成のモデル人口に置き換えた年齢調整罹患率を計算して比較します。



がんの部位別罹患数

がんの部位別罹患数（2021年）

部位	ICD-10	男		女	
		罹患数	%	罹患数	%
口腔・咽頭	C00-C14	16	2.4	7	1.3
食道	C15 D001	24	3.6	5	0.9
胃	C16	117	17.6	47	8.8
大腸（結腸・直腸）	C18-C20 D010-D012	138	20.8	113	21.0
肝・肝内胆管	C22	15	2.3	13	2.4
胆のう・胆管	C23-C24	18	2.7	8	1.5
膵臓	C25	26	3.9	18	3.4
喉頭	C32	3	0.5	1	0.2
肺	C33-C34 D021-D022	92	13.9	42	7.8
皮膚	C43-C44 D030-D049	16	2.4	15	2.8
乳房	C50 D05	0	0.0	114	21.2
子宮	C53-C55 D06	-	-	55	10.2
卵巣	C56	-	-	19	3.5
前立腺	C61	85	12.8	-	-
膀胱	C67 D090	36	5.4	14	2.6
腎・尿路（膀胱除く）	C64-C66, C68	17	2.6	11	2.0
脳・中枢神経系	C70-C72	1	0.2	2	0.4
甲状腺	C73	4	0.6	10	1.9
悪性リンパ腫	C81-C85, C96	18	2.7	14	2.6
多発性骨髄腫	C88, C90	3	0.5	2	0.4
白血病	C91-C95	12	1.8	5	0.9
その他	上記以外	23	3.5	22	4.1
全部位		664	100	537	100

男性

●男性に多いがんは、多い順に大腸、胃、肺、前立腺、膀胱の5つで、男性全体の7割以上を占めました。

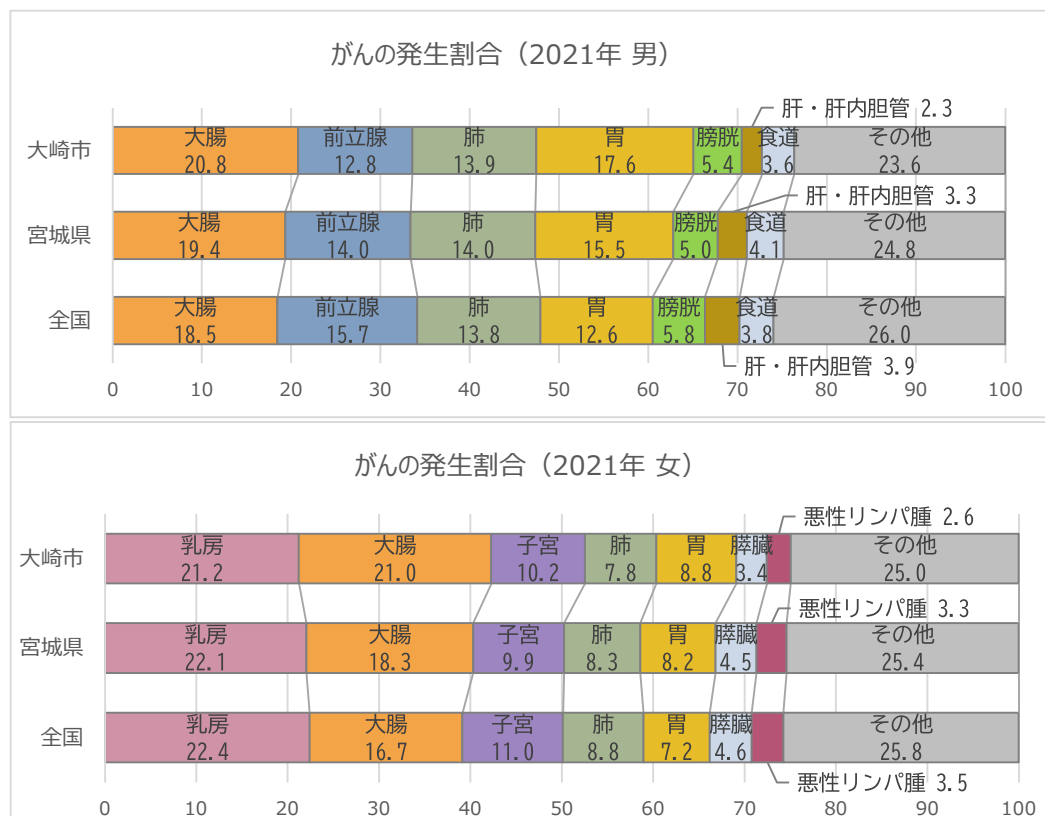
女性

●女性に多いがんは、多い順に乳房、大腸、子宮、胃、肺の5つで、女性全体の6割以上を占めました。

全国・宮城県との比較

●男性では、全国や宮城県と比べて、大腸、胃の割合が高く、前立腺、肝・肝内胆管、食道の割合が低くなっていました。

●女性では、全国や宮城県と比べて、大腸、胃の割合が高く、乳房、肺、膵臓、悪性リンパ腫の割合が低くなっていました。



年齢階級別罹患数

2021	男性	0-14歳	15-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
口腔・咽頭	16	0	0	0	1	2	5	7	1
食道	24	0	0	0	0	1	6	11	6
胃	117	0	0	0	2	5	34	42	34
大腸（結腸・直腸）	138	0	0	0	9	12	42	46	29
肝・肝内胆管	15	0	0	0	0	1	5	4	5
胆のう・胆管	18	0	0	0	0	0	5	6	7
膵臓	26	0	0	0	2	1	8	8	7
喉頭	3	0	0	0	0	1	0	1	1
肺	92	0	0	0	2	5	22	30	33
皮膚	16	0	0	0	0	0	3	5	8
乳房	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子宮（頸部・体部）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣	-	-	-	-	-	-	-	-	-
前立腺	85	0	0	0	0	8	23	24	30
膀胱	36	0	0	0	1	4	6	11	14
腎・尿路（膀胱除く）	17	0	0	0	1	2	5	7	2
脳・中枢神経系	1	0	0	0	0	0	0	0	1
甲状腺	4	0	0	1	0	1	2	0	0
悪性リンパ腫	18	0	0	0	0	1	7	5	5
多発性骨髄腫	3	0	0	0	0	0	1	0	2
白血病	12	1	0	1	2	0	1	3	4
その他	23	0	1	1	0	3	11	5	2
	664	1	1	3	20	47	186	215	191

多

少

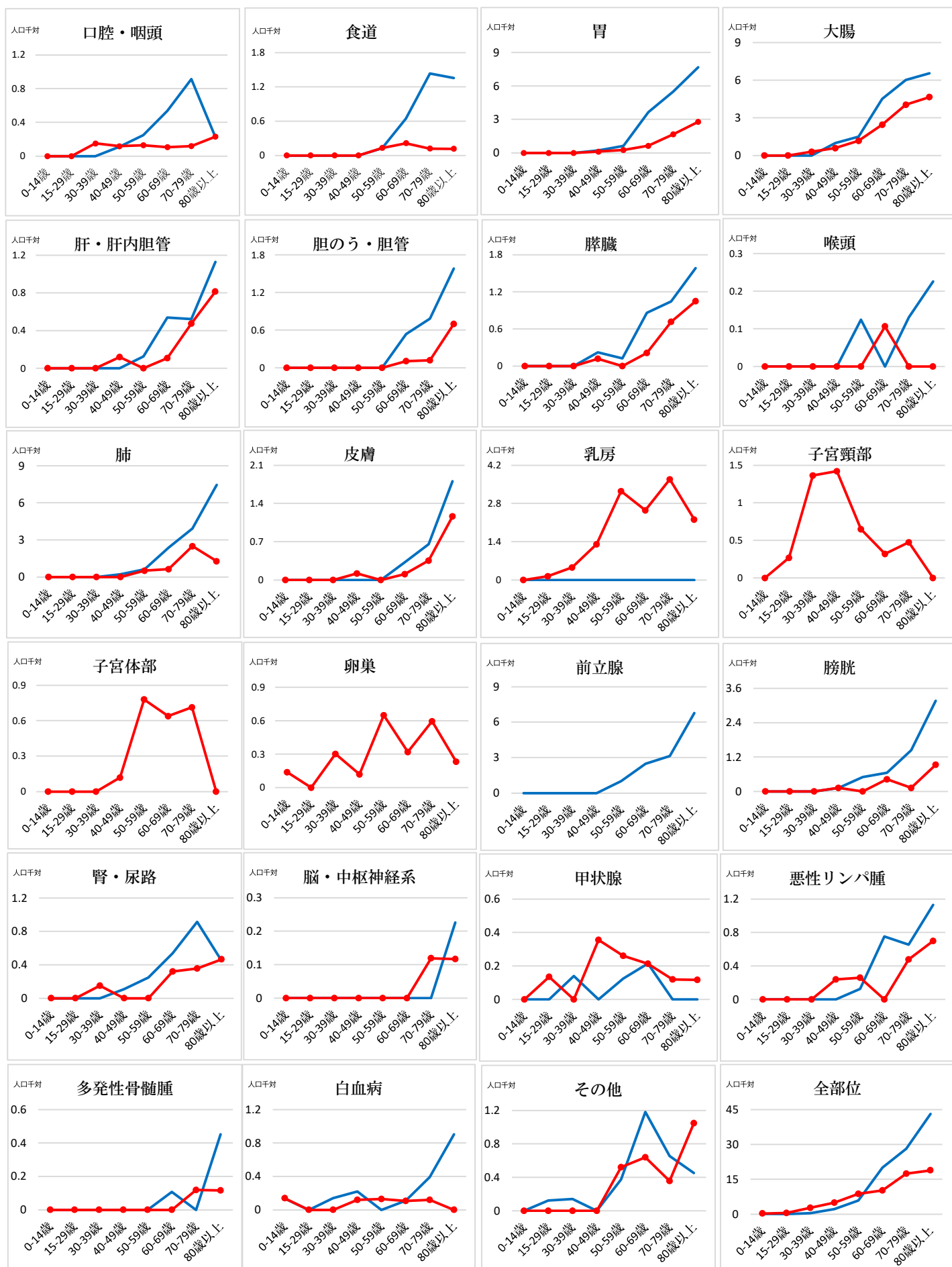
2021	女性	0-14歳	15-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
口腔・咽頭	7	0	0	1	1	1	1	1	2
食道	5	0	0	0	0	1	2	1	1
胃	47	0	0	0	1	2	6	14	24
大腸（結腸・直腸）	113	0	0	2	5	9	23	34	40
肝・肝内胆管	13	0	0	0	1	0	1	4	7
胆のう・胆管	8	0	0	0	0	0	1	1	6
膵臓	18	0	0	0	1	0	2	6	9
喉頭	1	0	0	0	0	0	1	0	0
肺	42	0	0	0	0	4	6	21	11
皮膚	15	0	0	0	1	0	1	3	10
乳房	114	0	1	3	11	25	24	31	19
子宮（頸部・体部）	55	0	2	9	13	11	9	10	1
卵巣	19	1	0	2	1	5	3	5	2
前立腺	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膀胱	14	0	0	0	1	0	4	1	8
腎・尿路（膀胱除く）	11	0	0	1	0	0	3	3	4
脳・中枢神経系	2	0	0	0	0	0	0	1	1
甲状腺	10	0	1	0	3	2	2	1	1
悪性リンパ腫	14	0	0	0	2	2	0	4	6
多発性骨髄腫	2	0	0	0	0	0	0	1	1
白血病	5	1	0	0	1	1	1	1	0
その他	22	0	0	0	0	4	6	3	9
	537	2	4	18	42	67	96	146	162

多

少

年齢階級別罹患率

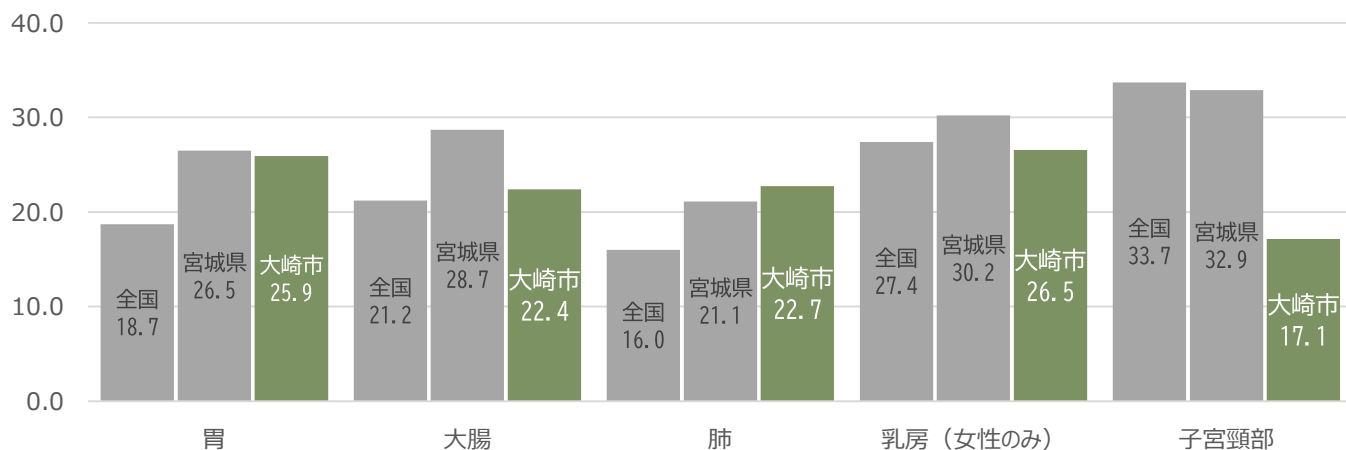
— 男性 — 女性



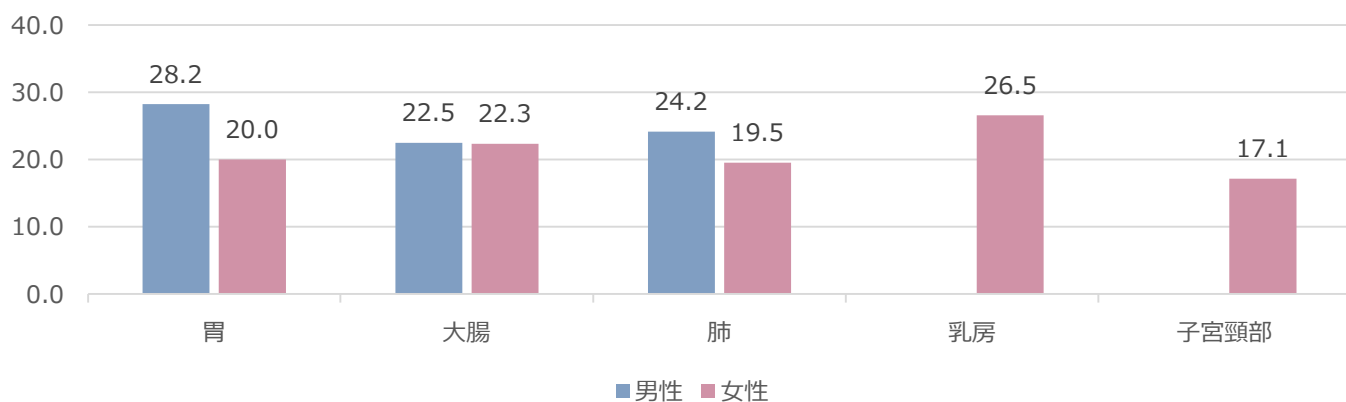
がんの検診発見割合

●肺で、がん検診等（健康診断・人間ドックを含む）で発見された割合が全国や宮城県よりも高くなっていました。男女別では、胃、大腸、肺で男性で高い値でした。

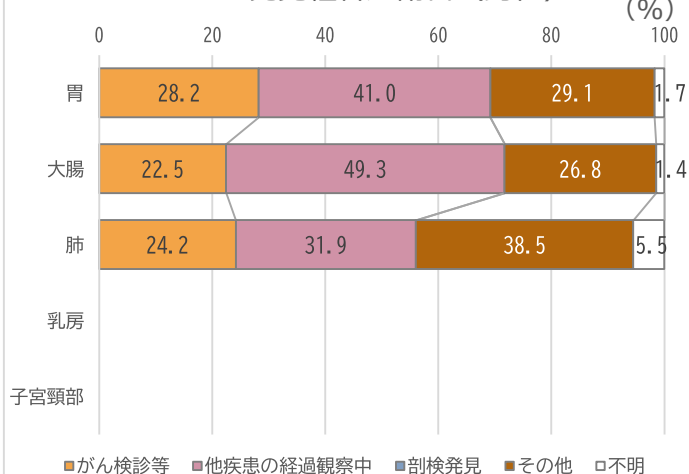
がんの検診発見割合（2021年）



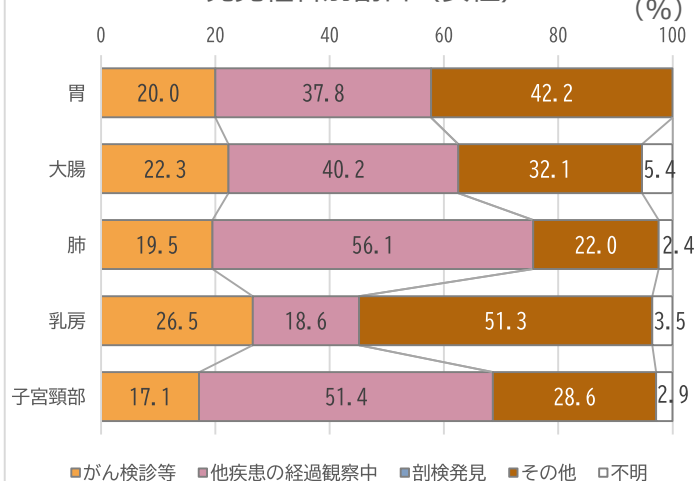
がんの検診発見割合（男女別）



発見経緯別割合（男性）

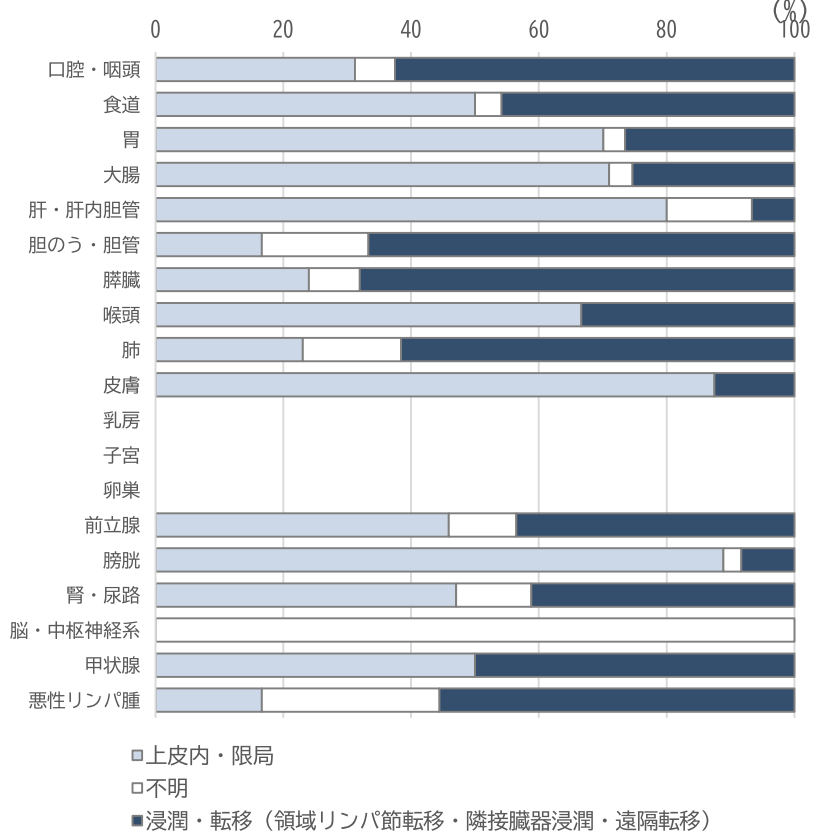


発見経緯別割合（女性）



進展度

がんが発見されたときの進み具合（2021年 男）



上皮内・限局	不明	浸潤・転移
31.3	6.3	62.5
50.0	4.2	45.8
70.1	3.4	26.5
71.0	3.6	25.4
80.0	13.3	6.7
16.7	16.7	66.7
24.0	8.0	68.0
66.7	0.0	33.3
23.1	15.4	61.5
87.5	0.0	12.5
0.0	0.0	0.0
-	-	-
-	-	-

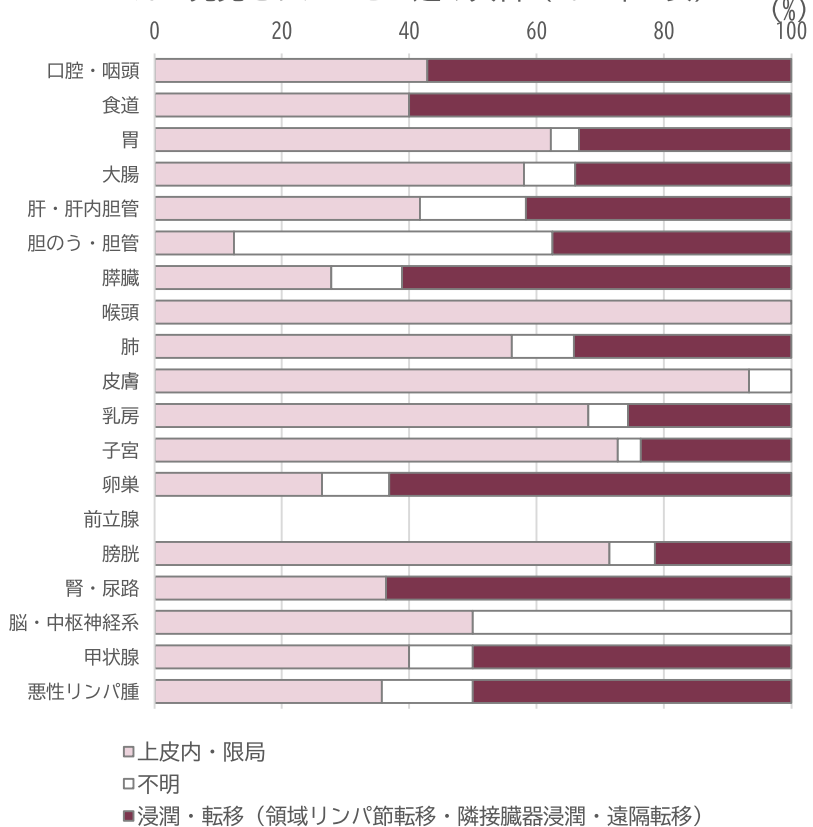
男性

●胃、大腸、肝・肝内胆管、喉頭、皮膚、膀胱で、早期のがんが多くなっていました。一方、口腔・咽頭、胆のう・胆管、膵臓、肺、悪性リンパ腫では、進んだ状態のがんが多くなっていました。

女性

●胃、大腸、喉頭、肺、皮膚、乳房、子宮、膀胱で、早期のがんが多くなっていました。一方、口腔・咽頭、食道、膵臓、卵巣、腎・尿路では、進んだ状態のがんが多くなっていました。

がんが発見されたときの進み具合（2021年 女）



上皮内・限局	不明	浸潤・転移
42.9	0.0	57.1
40.0	0.0	60.0
62.2	4.4	33.3
58.0	8.0	33.9
41.7	16.7	41.7
12.5	50.0	37.5
27.8	11.1	61.1
100.0	0.0	0.0
56.1	9.8	34.1
93.3	6.7	0.0
68.1	6.2	25.7
72.7	3.6	23.6
26.3	10.5	63.2
-	-	-
71.4	7.1	21.4
36.4	0.0	63.6
50.0	50.0	0.0
40.0	10.0	50.0
35.7	14.3	50.0

進展度…がんが発見されたときの進み具合のことで、す。病院では「ステージ」が使われますが、進展度は、これをもう少しわかりやすくしたものです。進展度が上皮内または限局のときは、がんが臓器の表面や臓器内に限局している状態で、比較的早期の状態です。一方、浸潤・転移のときは比較的進んだ状態になります。

がんの発見経緯と進展度

